

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

少人数で細やかな指導を受けられると思った為。京田辺という場所にキャンパスがあり、設備が整っている等、大学4年間過ごすのに理想的な環境だと思ったから。又、どうしても指導してもらいたい音楽講師が同志社女子大学にいらしたから。

(2) 一般入試対策としての受験勉強、実技試験対策の進め方について。※音楽学科入試課題については、『2021年度音楽学科入試課題』で必ずご確認ください。

〔1学期〕ピアノ実技の試験曲を決める為に、様々な曲を音譜読みしたり、聴いたりしました。又、私はピアノを演奏する時のフォーム(姿勢、首、上腕が使えていない、手首がカチカチ、指の独立等)を正す為にフィンガートレーニングにも通い始めました。受験勉強は、学校の休み時間や自習時間、通学時間で全て済ませていました。

〔夏休み〕朝7時に起床して7時15分から12時頃迄勉強した後、ピアノを練習するという毎日を繰り返していました。勉強に関しては、MARCHや同志社大学の過去問をひたすら解っていました。ピアノは本格的に試験曲への練習を始め、同志社女子大学の夏期講習会に参加しましたが、どちらかと言えば勉強の方に比重を置いた夏だったように思います。

〔2学期～入試直前〕

新曲視唱、エルユーンゲンを歌った後、夜の11時迄ピアノを猛練習する毎日でした。バッハの平均律1巻16番とショパンエチュードOp.10-8に苦戦しました。バッハに関しては、チェンバロの音源とライブの演奏が参考になりました。10-8はペダルを抜いて右手のバッセージをゆっくり弾く練習を繰り返すと曲全体が滑らかになりました。又、テンポ調整が出来ないようにするために、左手の音をよく聴いて弾くようにしていました。色々な音源を聴いて左手の弾き方を工夫しました。楽典はレッスンから自宅への帰宅途中に勉強していました。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

高校生活はピアノと勉強の両立を精一杯だったので部活には入りませんでした。健康面は早寝早起きして朝ごはんをしっかり食べ、好まない無く食事を摂る事に注意しました。スマートフォンで録音しながらピアノを練習したり、参考にしている音源を入れているだけでもすぐに聴ける様にしていたのですが、ピアノの練習中は録音と音源のアプリ以外は使用しない様にしていました。スランプになった時は一番新しいレッスンの録音を何度も聴き直したり、家の周りを歩いたり本を読んだりして気分転換する様にしています。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

私は夏休みの時のピアノの練習量が不十分でした。その結果推薦入試迄に曲が仕上がらず、一度受馬兎失敗してからのもスタートとなってしまいました。長時間、ピアノを練習し続ける事で自分に自信を取り戻し、気持ちも切り替えて一般入試に臨む事が出来ました。